

「公認心理師試験 事例問題の解き方本 PartⅢ」の詳細は、下記 URL をご覧ください。

<https://sinri-store.com/cart2/#jirei2020>

問 76 5歳の男児A。Aは、実父からの身体的虐待が理由で、1か月前に児童養護施設に入所した。Aは、担当スタッフの勧めで同施設内に勤務する公認心理師Bの面談に訪れた。担当スタッフによると、Aは、入所時から衝動性・攻撃性ともに高かった。施設内では、コップの水を他児Cにかけたり、他児Dを椅子で殴ろうとしたりするなど、Aの暴力が問題となっていた。また寝つきが悪く、食欲にむらが見られた。Bとの面談でAは暴力の理由を「いつも僕が使っているコップをCが勝手に使ったから」「Dが僕の手首を急に掴んだから」と語った。また、「夜眠れない」と訴えた。

Bが初期に行う支援として、適切なものを2つ選べ。

- ① 遊戯療法を速やかに導入し、Aに心的外傷体験への直面化を促す。
- ② 受容的態度でAの暴力を受け入れるよう、担当スタッフに助言する。
- ③ コップ等の食器は共用であるというルールを指導するよう、担当スタッフに助言する。
- ④ Aの様子を観察し、Aが安心して眠れる方法を工夫するよう、担当スタッフに助言する。
- ⑤ 衝動性や攻撃性が高まる契機となる刺激ができるだけ生じないように、担当スタッフと生活環境の調整を検討する。

※本書籍に掲載の2020年公認心理師試験問題(12/20実施)は、一般財団法人日本心理研修センターのHP(<http://shinri-kenshu.jp/>)から転載しました。

正答：①⑤

まず、選択肢を眺めると、①心的外傷体験の直面化、②暴力の受け入れ、③ルールの指導、④安心して眠れる方法の工夫、⑤生活環境の調整、と簡素化できる。

次に、事例を読むと、身体的虐待を受けたAの衝動性・攻撃性と不眠という2つの問題があることが分かる。衝動性・攻撃性に関しては、暴力を受け入れる態度は受容的とは言えないし、そうすることで暴力を助長することになる。したがって、②は適切でない。

5歳の年齢を考えると、食器が共用であるというルールを指導するより、コップだけでも個人用にするといった生活環境の調整が望ましいと思われる。したがって、③は適切でなく、⑤は適切である。不眠に関しては、Aが安心して眠れる方法を工夫する必要がある。したがって、④は適切である。なお、5歳の子どもに心的外傷体験の直面化は、つらかったことを思い出させるだけで、かえって混乱させることになる。したがって、①は適切でない。

●着眼点

施設における虐待への対応は、まず、生活環境の調整を行ってから心理療法を試みるべきである。また、被虐待児が示す試し行動に振り回されず冷静に対処することである。